



TADASUNO MORI



紬の森ふらりふらり 第30回

紬の森の 気になる木

《新連載》 紬の森の植物図鑑

双葉葵

整備活動紹介・NEWS・催事案内

令和7年3月31日発行 通号79号

NEWS & INFO

【事務局だより】

会議報告 令和6年10月1日より令和7年3月31日まで

第32回理事会

決議事項

- ①自令和6年4月1日至令和7年3月31日事業年度に係る事業計画の変更の件
- ②自令和7年4月1日至令和8年3月31日事業年度に係る事業計画及び収支予算の件
- ③資金調達及び設備投資の見込みの件
- ④顧問選任の件

報告事項

- ①役員退任の報告
- ②職務執行の報告
- ③会員数の報告
- ④世界遺産 国指定史跡「紬の森」環境整備・景観保全と文化財保存修理事業の報告

※役員名簿は財団ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

会員数報告 (令和7年3月1日現在)

●賛助会員	117名
●団体・法人会員(特別・正)	86件
●個人会員	1,202名
合計	1,405件

令和7年度会員証並びに特典パンフレット

令和7年度の会員証は6月下旬にお届けいたします。なお、令和6年度会員証は6月30日までご利用いただけます。

新入会員ご誘致のお願い

多くの方に世界遺産紬の森の環境保護と下鴨神社の文化財保全にご理解、ご支援をいただきたく、会員の皆さまには、新しい会員募集の呼びかけに一層のご協力をお願いいたします。紬の森財団ホームページの「入会申込フォーム」からお申込みいただけます。

紬の森財団会員特典

協賛の企業、ホテル、飲食店、商店、タクシー会社などで、紬の森会員証を提示されると、様々なご優待が受けられます。ぜひご利用ください。



会員特典
一覧は
こちら



クレジットカード決済による寄付・会費のお支払

ご寄付・ご入会(継続の年会費支払も含みます)・ご献木をされる際に、紬の森財団ホームページの申込フォームにおきまして、クレジットカードでの申込が可能となります。国際ブランド(VISA、JCB等)のいずれかのロゴがついていれば、発行しているカード会社に関係なくご利用可能です。クレジットカード決済であれば、お支払いに当り、金融機関等に足を運ぶご負担が軽減されます。

【下鴨神社だより】

令和7年 祭事日程

●上半期行事	4月29日.....市民植樹祭	●下半期行事	7月18日~7月27日...みたらし祭
	5月3日.....流鏝馬神事		8月6日.....矢取神事
	5月12日.....御蔭祭		10月6日.....名月管絃祭
	5月15日.....賀茂祭(葵祭)		
	6月14日.....蛍火の茶会		

各祭事の詳細については、下鴨神社のホームページにてご確認ください。



題字

賀茂御祖神社
新木直人宮司

紬の森

編集・発行

公益財団法人
世界遺産賀茂御祖神社境内紬の森保存会事務局

〒606-0807 京都市左京区下鴨泉川町59 賀茂御祖神社内
☎ 075-781-0010 www.tadasunomori.or.jp

-H.P.-



-Instagram-



ごあいさつ

世界遺産・国宝賀茂御祖神社・
国指定史跡「糺の森」環境保全会
会長

榊原 定征

一般社団法人日本経済団体連合会 名誉会長
関西電力株式会社 取締役会長



皆様には、平素より「糺の森」の環境保全活動にお力添えを頂き、厚く御礼申し上げます。昨年、大河ドラマ「光る君へ」が大きな話題を集めました。ドラマの中では主人公 紫式部や平安貴族に関連し、京の都の四季折々の自然や文化、神社仏閣が取り上げられました。物語の舞台の一つである糺の森にも、国内外からたくさんの人々が集い、穏やかな祈りの姿や笑い声が響きました。

今年は、大阪・関西万博が開催、会場では、新しい未来社会の姿が披露され、世界中から多くの人々が関西に集まることと思います。近年のインバウンドの高まりと相まって、千年の都京都にもたくさんの方々を訪れ、ここの糺の森も、より一層の賑わいを見ることが期待されます。

糺の森の環境保全活動も、年々歳々、難しさを増しています。世界遺産「糺の森」を守り、次世代に残していくため、糺の森財団は、近年、台風による風水害からの森の再生をはじめ、境内の環境保全、鴨社神宮寺旧跡の整備等、着実に取り組みを進めてまいりました。源氏物語に取り上げられる遙か古の昔から、あまたの天変地異、争乱を乗り越え、糺の森は人々の祈りの中心として、大切に守り続けられ、今日まで引き継がれてきたものです。この貴重な古代からの植生や文化を次の世代に継承していくことは、今を生きる私たちの重大な責務であろうと思います。

私も、微力ながら力を尽くしてまいる所存でございますので、皆様のより一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

ぶらり

【第30回】

糺の森の気になる木

「はじめに」

京

都市内の平地にあつて、山城盆地原植生の姿を

今もなおとどめている糺の森の存在は、賀茂御祖神社（鴨神社）が世界文化遺産に登録されること

となった所以の一つでもあると思っています。世界の植物園は近年、自国に自生の植生、特に樹木を意識して植栽・展示することを重要視し、国の遺産として大切に伝え残す管理を行う傾向にあります。糺の森は、よく眺めると、人の手が長く入らない状態のまま今に至っているのではなく、明らかに人の手によって植栽した樹木や鳥の種子散布により発生した樹木らが混在した構成となっていることから、私はある意味、樹木園の様相を呈した緑空間として捉えています。

境内を歩くと、そここに気になるシンボルツリーの樹木が生立。それらと対峙し「何としても生き抜くぞ」といった生きざまの歴史を感じた瞬間、心の中で手を合わせます。



① カツラ *Cercidiphyllum japonicum* カンナ科
御蔭通りと表参道の交差点北に二本が東西に生立。

植栽してまだ年数が浅く、しっかりと根付いてくれることを願うばかりですが、今後の生長が楽しみな樹木です。葉はフタバアオイに似て、葵祭には「葵桂」がいたるところに飾られます。雌雄異株。花をまだ確認していないのでなんとも言えませんが、雌雄一株ずつであることを期待します。

西にカツラ、東には珍しいシダレカツラ

② イチョウ *Ginkgo biloba* イチョウ科
表参道を進み紅葉橋のたもとから左(西)方向を見ると、秋の黄葉が見事なイチョウが目飛び込みます。河合神社が鎮座する区域の南東端に生立し、胸高直径(地上高1.2メートル位置の幹直径)は1.34m。特徴ある枝ぶりは自然樹形に見て取れ、横方向に伸張する長枝(ちようし)で光獲得の範囲を広げる一方、長枝から出る短枝(たんし)に付く葉で行う光合成により、樹体をより大きく生長させます。

株元には四本の後継樹が、親株が倒れても次代が何としても継ぐから任せておけ、との力強いDNAを感じますが、うち、西側の三本は切り株から発生しているの、なんと生命力の強い樹木なのかと驚嘆します。

⑥ イヌザクラ *Padus buergeriana* バラ科
さざれ石の南。胸高直径19cm。市内周辺の山でもまれにしか目にするのがないので、本種を目の前で見たときは何度も見直し、目線の高さで咲く花を観察して確信した次第です。
糺の森のどこかに生立しているかもしれないウワミズザクラと花の付き方はそっくりですが、花柄に数枚の葉が付くウワミズザクラに対し、イヌザクラは付かないので区別できます。

「平成15年4月6日、下鴨神社青年会設立記念」とあり、植栽の履歴がわかりうれしい限りですが、花のない時にも名を知りたいので、樹名表示もほしいところです。

⑦ オガタマノキ *Magnolia compressa* モクレン科
楼門東塀の南向かい。今後、生長が楽しいな樹木です。周辺の樹木を伐採した結果、日照条件が良くなり、開花・結実に良い影響をもたらすでしょう。花は春、白色、小さく上向きに咲くので気づきにくいですが、完熟果実は下垂し目立ちますので見上げてみてください、神楽舞の神楽鈴そっくりです。漢字表記は招霊木。神社になくてはならない樹木の所以です。日本に自生するこの仲間のほとんどが落葉樹にあつて、本種は唯、常緑樹。

「おがたまの木 文久三年(1863)三月

③ ケヤキ *Zelkova serrata* ニハ科
紅葉橋のすぐ北、瀬見の小川沿いの法面肩に生立する胸高直径1.19mの個体。初めて見たとき、根張りの凄さに目が点になりました。川の流れ方向に沿って発達した巨大な板根(ばんこん)のおかげで、何十回をはるかに超えて遭遇したであろう台風にも倒れることなく、しっかりと命を守り抜くことができました。どんなに強風が吹くことができませんでした。板根には強い意志が働いているように感じます。

主幹の樹皮は樹齢が高くなると、モザイク状に剥がれる特徴があります。

④ ムクノキ *Aphananthe aspera* アサ科
河合神社にほど近いカリン並木沿い西側に生立。
この樹木の前で足を止める人はまずいませんが、対峙してほしい。
物言わぬ樹木はタネが落ちたその場所に生涯立ち尽くし、原因は何であれいずれ果てる運命にありますが、必死で生き抜こうとする姿は、成長過程のそここで見受けられます。

樹幹下部の心材部に腐朽が進んだこの個体、でも倒れない。取り囲んだ辺材部と樹皮組織の新たな細胞の活性化、また根も肥厚し、立ち続ける自己治療能力を発揮します。

十二日 孝明天皇賀茂行啓 御祈願祈念御手植の石碑。

⑧ ホオノキ *Magnolia obovate* モクレン科
橋殿の南。
すさまじい生きざまの姿を目の前に、立ちすくみ固まりました。

高さ2m付近で主幹が何らかの原因で折損。圧倒されるのは、株元から発生した六本もの新しい幹です。何としても生き抜こうのDNAがそうさせたとは思えないほど、光を求め真上に伸び上がり、中でも白っぽい色の若齢の二本は、この株全体が元気だとの証拠を示しています。地表の縦横に広がる根にも注目！

落葉期、この樹木に近づく、足元にワラジ形の大きな葉が落ちているのに気づきます。目線を上げた先に見える枝の本数と太さは、他の落葉樹(ムクノキ、ケヤキなど)に比べ、圧倒的に少なく太く、これは大きな葉の重量を支えるための戦略だとわかります。花は春、白色で大きく、枝先に上を向いて咲く姿はチューリップのようです。

⑨ ヒメコマツ・媛小松 II ゴヨウマツ・五葉松 *Pinus parviflora* ムク科

神服殿の南。ヒメコマツとゴヨウマツは同種異名。ほかの社寺仏閣でも本種を見ますが、これはどこまでコンパクトに管理された個体はじめてです。剪定技術のみならず、株元

主幹の樹皮は樹齢が高くなると、ささくれ状になる特徴があります

⑤ ツガ *Tsuga sibirica* ヒノキ科
手水舎近くに二本が生立。

樹齢は何年ほどだろうと想像しながら見入っていると、二本それぞれの壮絶な生きざまに気づきます。

前の個体は胸高直径63cm。幹は西側に傾き、その方向にだけ枝が伸びている完全な片枝状態。邪魔のない空間を求め、西側に枝を伸ばしました。枝の先端には松ぼっくり様の球果が多くつき(だから、マツ科)、山に行かなくても観察できるのはうれしいことです。

樹高のわりに直径が小さく、強風により倒れないか心配です。

向かつて右手、奈良の小川沿いの個体は胸高直径62cm。10mほどの高さで折損。その下の三本の太い枝から幹のようになった六本の枝が太陽光を求め、見事に伸び上がっています。フォーク形の姿は上下の重量バランスがいかに不安定に見えるので、風や雨で倒れないか心配です。

空間や太陽光を求めて繰り広げられる樹木同士のバトルに次ぐバトル。何としても生き続けようとの姿に、生き抜いてくれと願うばかりです。

に出る枝を切除せず、本来の自然樹形を見せていることに感服しました。ちなみに、ゴヨウマツは、一つの束から五本の針葉が発生しているから五葉の松、五葉松。思い切り近づいて確かめてください。アカマツ、クロマツは二本なので二葉松。三葉松は日本には分布しません。

この個体の前に「媛小松」の説明表示があり、名づけの由来などがわかります。

境内を進むと、糺の森の凜とした荘厳な雰囲気圧倒され、気分が引き締まる思いに包まれるのは、樹木一本一本が発する「そう簡単にはくたばらないぞ」、の靈気を全身に感じるからなのでしょう、そんな気がします。

■ささやかな願い
主だった樹木に目立たない程度の樹名板の設置があれば、参拝者に多種多様な樹木の存在を知ってもらえまた、参拝の楽しみも増し、格調高い存在感がさらにアップすると思います。

京都府立大学客員教授
京都府立植物園名誉園長
松谷 茂



① 平成30年に上陸した台風21号による倒木の被害例

② 糺の森における、市民の皆さんによる後継樹植え付け風景（4月29日植樹祭にて）

平成30年（2018年）9月4日に上陸した台風21号は、京都市内で最大瞬間風速39.4メートルを記録し、世界遺産である糺の森にも甚大な被害をもたらしました。具体的には、27種288本の樹木が被害を受け、その内訳は根返り木（根こそぎ倒れた木）89本、幹折れ木（幹が途中で折れた木）69本、大枝落ち木（大枝が折れた木）114本、巻き添え木（他の倒木などの影響で被害を受けた木）16本でした。被害を受けた樹木の処理は約1年半をかけて行われ、令和2年（2020年）3月末に完了しました。具体的な復旧作業としては、倒木の撤去、幹折れ部分の切断と薬剤塗布、高所作業車を用いた危険枝の剪定などが実施されました。しかし、森が元の姿を取り戻すには長い年月が必要とされており、継続的な保全活動が求められています。

糺の森財団では、毎年4月29日（昭和の

日）に、下鴨神社内の糺の森で「糺の森市民植樹祭」を開催しています。この行事は、糺の森の保全と後継樹の育成を目的としており、継続的に行われています。

この糺の森は、平安京以前の原生林の植生を今に伝える貴重な場所であり、その保全は文化的・学術的に重要です。しかし、近年の台風被害や環境変化により、多くの樹木が損傷・倒壊し、森の生態系に影響を及ぼしています。特に、ムクノキ、エノキ、ケヤキなどの後継樹の育成が課題となっており、この植樹祭では、ムクノキ、エノキ、ケヤキに加え、カツラ、モミジなどの苗木も植えられ、参加者は植樹を通じて森の再生に貢献します。

この活動は、単に木を植えるだけでなく、市民が森の現状や保全の重要性を理解し、未来の糺の森を共に育む機会となっています。また、植樹祭と同時に「糺の森フェスタ」も開催され、ボーイスカウトやガールスカウトによるイベントや抹茶の接待など、多彩な催しが行われ、地域コミュニティの活性化にも寄与しています。

このように、植樹祭は糺の森の長期的な保全と市民参加型の環境教育の場として重要な役割を果たしており、未来の世代に豊かな自然環境を引き継ぐための大切な取り組みとなっています。

世界遺産「糺の森」を守る活動にご寄附をお願いします

令和6年度も多くのご寄附をいただき、糺の森に関する数々の助成事業、普及広報活動を実施することができました。心よりお礼申し上げます。令和7年度も引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

ご寄附は **同封の振替用紙** をご利用いただきますようお願い申し上げます。また、「糺の森財団ホームページ」の寄附申込フォームからお申込みいただけます。

寄附金に税額控除制度が適用されます

寄附金
特別
控除額

=

その年中に支払った
公益社団法人等に対する - 2,000円
寄付金の額の合計額^{※1}

× 40%
（※2）

当財団は内閣府より「税額控除に係る証明書」を取得しております。（当財団HPに添付されています）これにより、個人の当財団への**寄附金・会費・献木**について、領収書及び「税額控除に係る証明書」を添付の上、確定申告時に税額控除制度の適用を選択した場合、左に示す算式により算出された額が**所得税額から控除されます**。

※1 「その年中に支払った公益社団法人等に対する寄附金の額の合計額」については、その年分の総所得金額等の40%相当額を限度とされます。
※2 寄附金特別控除額は所得税額の25%相当額が限度となります。



糺の森後継樹の育成



双葉葵

双葉葵（ふたばあおい）はウマノスズクサ科カンアオイ属の多年草で、日本の温帯地域に自生します。湿り気のある落葉樹林の林床を好み、特に日陰の多い環境で成長します。葉はハート形で、春先に地面近くの目立たないところに紫褐色の花を咲かせます。種子はアリによつて運ばれることで分布を広げますが、森林の減少や環境変化により自生地が減少しています。

賀茂御祖神社（下鴨神社）とは深い関わりがあり、神社の神紋として用いられています。また、5月に行われる「葵祭」では、祭りに関わる人々が双葉葵を冠や衣装に飾り、古くから神聖な植物とされてきました。これは、賀茂神社の神事において双葉葵が神聖な飾りとして用いられたことに由来します。

下鴨神社の境内に広がる「糺の森（ただすのもり）」は、双葉葵の貴重な自生地の一つです。神社では保護活動が行われ、双葉葵の育成を通じて伝統と自然環境の保全が図られています。この植物は、賀茂御祖神社の歴史や文化を象徴し、今も神事や祭礼の中で重要な役割を果たしています。

科名 属 種	ウマノスズクサ科 カンアオイ属 フタバアオイ
特徴	多年生草本 茎は地上を横に這い、 多肉質で紫を帯びた褐色、 節の間が長く伸び、 枝分かれしてその先端には 鱗片葉を互生している。
開花時期	春～初夏
雑学	説明文にあるように神聖視 されていたこと、また徳川家 の家紋として用いられてい たことから、市井で栽培さ れることはあまりなく、不思議 なことに植物としての認知 度は低い。

糺の森で観賞できる場所
・河合神社
・大炊殿葵の庭拝観路内

糺の森会員カードのご提示で
無料にてご観覧できます

【 助成対象事業 】

糺の森財団は、令和6年度に実施された次の事業に助成を行いました。

..... 助成総額 101,700,000円

- | | |
|---|---|
| <p>●国指定史跡 御蔭神社 整備工事
参拝者用便施設工事
助成額 53,600,000円</p> | <p>●世界遺産 糺の森境内環境保全事業
危険木伐採、表参道等の砂補充敷き均し等工事
助成額 3,150,000円</p> |
| <p>●国指定史跡 御蔭神社 整備工事
参集所等新設工事
助成額 20,400,000円</p> | <p>●御蔭祭保存事業
日本最古の神幸列として古儀を継承する御蔭祭の保存事業
助成額 2,000,000円</p> |
| <p>●国指定史跡 御蔭神社 整備工事
石垣修復工事
助成額 17,700,000円</p> | <p>●流鏑馬神事の保存と騎射育成事業
助成額 500,000円</p> |
| <p>●世界遺産 糺の森 植栽工事
助成額 4,100,000円</p> | <p>●世界遺産 糺の森「葵の庭」整備工事
助成額 250,000円</p> |



秋の糺の森コンサート「音の森」開催 (河合神社境内)

令和6年の「音の森」は、9月は6名による声楽アンサンブル、10月は3名による北欧音楽コンサート、11月は9名によるコーラスコンサートが行われました。毎回、多くのお客様が美しいハーモニーと音色に聴き入っていました。

▼ PICK UP REPORT ▼

遊び、学ぶ、
糺の森のつどい

催事案内

各催事
詳細に
ついて

お問い合わせ | 糺の森財団事務局
TEL.075-781-0010

糺の森財団
ホームページ
年間行事



【 春の糺の森コンサート 音の森 】

- | | | |
|-----|-----------------------|--|
| ●月日 | 4月・5月・6月(日未定) | ※雨天の場合は中止となります。来場にあたり、糺の森財団HP「糺の森だより」をご確認ください。 |
| ●時間 | 各月とも午後2時～午後3時(予定) | |
| ●会場 | 河合神社にて開催予定(糺の森南側) | |
| ●参加 | 無料(ご寄付にご協力いただければ幸いです) | |

【 第35回 糺の森 市民植樹祭 】

山城原野の植生を今に残す「糺の森」を後世に伝えるため、毎年多くの方にご参加いただいています。

- | | |
|-----|----------------|
| ●月日 | 4月29日(火・祝) |
| ●時間 | 午前10時～正午(雨天決行) |
| ●場所 | 糺の森馬場特設会場 |



成木植樹

子供や孫の誕生、結婚周年などの記念に成木を植樹いただけます。

- | | |
|------|--|
| ●献木料 | 300,000円(幹周り20cm前後・樹高4～5m位・樹齢7～10年位)
500,000円(幹周り30cm前後・樹高5～6m位・樹齢10～12年位)
800,000円(幹周り40cm前後・樹高6～7m位・樹齢13～15年位)
※上記の幹周り、樹高、樹齢は目安です。樹種によって異なる場合があります。
樹種は、ケヤキ・ムクノキ・カツラ・エノキ・カエデから選びいただけます。
献木された方は、植樹祭奉告祭、記念式典にご案内いたします。 |
|------|--|

- | | |
|------|---|
| ●申込み | 下鴨神社内糺の森財団事務局
TEL:075-781-0010 Mail: info@tadasunomori.or.jp |
|------|---|

- | | |
|-----|----------|
| ●締切 | 4月10日(木) |
|-----|----------|

苗木植樹

どなたでも参加いただけます。ケヤキ・ムクノキ・カツラ・エノキ・カエデの約50cmの苗木を糺の森に植樹していただけます。お気軽にご参加ください。

- | | |
|------|----------------------------|
| ●参加費 | 1,000円(1名) ※植樹用スコップと記念花鉢進呈 |
| ●申込み | 当日9時30分～午後2時 |

蛍の光に包まれた幻想的な体験

昨年初参加した「蛍火の茶会」は、まるで夢の中にいるかのような体験でした。薄暗い森の中、蛍の光が幻想的に舞い、参加者を包み込むような温かさを感じました。また、神服殿で披露された十二単衣の王朝舞や雅楽舞、箏曲などを観ながら友人や家族と共に過ごす時間は、笑顔と会話で溢れ、まさに心の豊かさを実感できる瞬間でした。自然と調和したこの催事は、日常の喧騒を忘れさせてくれる特別なひとときでした。また、今年も参加したいと思います。(やたがらす 47歳)



投稿のご案内

糺の森に関する思い出などを200文字程度でお寄せ下さい

【応募要項】

- ①投稿は葉書またはメール(info@tadasunomori.or.jp)で、氏名と会員番号を明記のうえお送りください。
※メールの場合、原稿はファイル添付ではなく、本文を直接入力ください。
- ②会報には本文、氏名(ペンネームの場合は5文字以内)、年齢が掲載されます。また、会報はバックナンバーとして当財団ホームページに掲載されます。
- ③投稿いただいた方には粗品をお送りします。

皆さまの「糺の森に寄せる思い」をお待ちしています！

【 下鴨神社 京都学問所だより 】

社中」とあります。おそらく、永教・永辰親子の奉納とみられています。



賀茂川と高野川が合流する下鴨剣先の北側にある旧三井家下鴨別邸の東側を走る下鴨東通りの向かいに、令和十八年の第三十五回式年遷宮事業にて復興予定の「天神宮社」の仮殿が祀りされています。この地には、通称、天満宮と呼ばれるお宮さんがあります。人々は「天神社」や「天神さん」と呼んでいました。明治時代初頭まで、この参道脇には、下鴨神社の学問所の先生たちが住んでおり、この場所には、文化七年(一八一〇)から講釈師の源流となる神道講談の玉田永教(七五六・一八三六)のお屋敷がありました。永教は、庶民に講談という形で、神道や神話について、全国を説いて回りました。元々は、大阪の露天神近くに住んでいたことから、邸内社として天満宮を祀ったと伝わっています。永教は数多くの著作を残しており、日本神話の解説をした『神道講義』をはじめ、天満宮の祖神となる天穗日命から菅原道真に至るまでの流れを、息子の永辰(ながとき)との共著で著した『菅家世系録』。天の岩戸までの日本神話を、江戸時代後期当時の風習と重ね合わせ、挿絵入りで分かりやすく解説した『神道柱立』。幕末期、吉田松陰に影響を与えたとされる『神国由来』『神国令』などがあります。

なかでも、寛政十二年(一八〇〇)刊の『年中故事』(上半期ののみ)は、宮中から民間に至るまでの年中行事をまとめたもので、祭事や神事、風習の由来・伝承などを端的にまとめた代表的著作があります。

永教は天保七年(一八三六)に大坂で亡くなり、すぐさま下鴨に運ばれ、高野川の東岸にある神道墓地に埋葬されたと記録されています。写真の常夜燈(現在補修中)は、文化十一年(一八一四)六月に下鴨神社に奉納されたもので「玉田氏社中」とあります。

同時
開催

【 糺の森 納涼市 】

日本酒・京菓子・京漬物・植木など老舗の名店約15店が出店いたします

- | | |
|-----|-----------|
| ●時間 | 午後1時～午後9時 |
| ●場所 | 下鴨神社楼門前 |

令和7年秋講座

【 世界遺産 糺の森 文化講演会 】

- | | |
|-----|-----------------------------|
| ●月日 | 9月(予定) |
| ●場所 | 下鴨神社 |
| ●参加 | 無料(糺の森保存のための募金500円をお願い致します) |

各催事とも詳細については、糺の森財団ホームページをご確認いただくか、糺の森財団事務局にお問い合わせください。TEL.075-781-0010